

## 視察研修会 報告

日 時 平成30年7月5日～6日

天 候 雨

参加者 13名

視察先 7/5：大王わさび園、フォッサマグナミュージアム、  
7/6：糸魚川大火（2016.12.22）と復興について  
視察研修、道の駅マリンドーム能生

### 大野南地区自治会連合会自治会長視察研修会について

他市との交流、他市の防災の取組みなどについて学習する機会を持つことと参加者同士の親睦・交流を深めることを目的として視察研修会を毎年実施しています。

今年は、糸魚川市の大火と復興状況について視察し、私たちの地域の防災の備えへの学習の機会としようという企画で研修会を開催いたしました。

今回は、初日に研修会を入れることが糸魚川市の都合によりできませんでしたので、第1日目は見学、第2日目に糸魚川市の担当職員との懇談、現地視察という予定になりました。

第1日目 7/5（木）午前7時出発

見学先① 大王わさび園 長野県安曇野市穂高 3640

北アルプスからの湧き水を利用した安曇野わさび田湧水群の一角にある、日本最大規模のわさび園であり、年間約120万人が訪れる安曇野随一の観光スポットです。雑草の生い茂る原野を20年の歳月をかけ完成させた。「大王」は敷地内にある大王神社に由来し、この神社は民話に登場する八面大王の胴体が埋葬されているとされています。

わさび田に引かれる湧水は一日12万トンで、水温は年間通して12℃。収穫は年間通して行われる。直射日光に弱いため、4月から9月末まで黒い寒冷紗でわさび田を覆っています。

また、ここは黒澤明監督の映画『夢』のロケ地としても知られています。



大王神社の大わらじ

わさびづくしの昼食



園内を二つの川が並行して流れています。



見学先② フォッサマグナミュージアム

新潟県糸魚川市大字一ノ宮 1313

安曇野を後にして、長野県小谷村を姫川に沿って糸魚川を目指しました。

糸魚川市は、糸魚川静岡構造線の直上に位置し、極めて多岐にわたる種類の岩石・鉱物、地質構造等が観察できる場所です。フォッサマグナミュージアムは、こうした地域の特徴を生かし、1994年4月25日にオープンしました。糸魚川から東部に広がるフォッサマグ

ナに関する展示、糸魚川やその周辺地域から産する鉱物、化石、岩石の展示を中心に、地球の進化などを学習できる展示内容となっています。屋外にも大型のヒスイの原石などが並べられ、収蔵品の種類や形態もさまざま。稼働状態のウィーヘルト型地震計も見ることが出来ます。2009年にはユネスコが支援する日本初のジオパークに認定され、2015年にリニューアルし、新潟県の博物館として唯一の日本展示学会賞を受賞した博物館です。ヒスイとフォッサマグナの博物館として有名です。



中庭に飾られているヒスイの大きな原石



## 〔フォッサマグナ〕

フォッサマグナは、日本の主要な地溝帯の一つで、地質学においては東北日本と西南日本の境目となる地帯。糸魚川-静岡構造線ともいわれています。

構造線とは、長さが数百キロメートルにわたって続くような大規模な断層のつながりのことをいい、構造線の両側では地層や岩石の特徴が大きく異なる。構造線すべてが活断層とは限らないが、構造線の周辺には並行して活断層が存在することが多い。

大陸の沿岸にある日本列島は、太平洋から大陸の下に沈みこむ海洋プレートから様々な方向の力を受けて至る所に断層が形成されている。このため各地に多くの構造線が存在しており、糸魚川-静岡構造線、中央構造線のほかにも、北関東から東北に延びる棚倉構造線などが知られている。中央構造線は、日本最大級の断層系でもあり、活動度の高い活断層（中央

構造線断層帯)が見られ、要注意断層のひとつとされています。



## 〔日本の国石ヒスイ（翡翠）〕

ヒスイ（翡翠、英: jade、ジェイド）は、深緑の半透明な宝石の一つ。東洋（中国）、中南米（インカ文明）では古くから人気が高い宝石であり、金以上に珍重された。古くは玉（ぎよく）と呼ばれた。非常に壊れにくいことから先史時代には石器武器の材料でもあった。

世界最古のヒスイ・・・糸魚川のヒスイは約5億2000万年前にできたもので、「世界最古のヒスイ」といわれています。ヒスイが含まれる地層は海底プレートが沈み込んだ中でできる古い地層です。2500年前に日本列島が大陸から離れて誕生するときに2つの全く違う地層を持つ塊が繋がる場所に大きな溝ができました。これがフォッサマグナですが、その時に海底の深いところにあったヒスイが含まれる古い地層が地上に押し上げられ、地上に出てきたところが糸魚川周辺になります。

糸魚川はヒスイ文化発祥の地としても世界最古・・・糸魚川では、今から5,500年ほど前の縄文時代から、ヒスイを大珠やまが玉などの装飾品に加工して交易していました。メソアメリカ（現在のメキシコ周辺）のヒスイ文化は約3,500年前であり、日本は世界最古のヒスイ文化発祥地といわれています。

糸魚川のヒスイは透明度が高い・・・日本国内には、糸魚川以外にもヒスイ産地がある。たとえば、鳥取県若桜町では紫色のラベンダーヒスイ、長崎市の琴海では灰緑色のきれいなヒスイが見つかるが、宝石になる良質なヒスイが多くあるのは糸魚川だけです。

新しい鉱物も発見された・・・地下深くからもたらされるヒスイには、希少な鉱物が含まれていることがあります。これまで、ヒスイを含む岩石のなかから、「糸魚川石」「蓮華石」「松原石」などの新鉱物が発見されています。

日本でのヒスイ利用・・・約 5,000 年前の縄文時代中期に糸魚川で縄文人がヒスイの加工を始めました。これは世界最古のヒスイと人間の関わり（ヒスイ文化）です。

その後、弥生時代・古墳時代を通じてヒスイは非常に珍重されました（三大丸山遺跡からも糸魚川のヒスイが出土しています）が、奈良時代以降は全く利用されなくなってしまいました。奈良の東大寺の法華堂（三月堂）本尊「不空罽索観音立像（国宝）」の頭上の冠の装飾にヒスイが多く使われたのを最後に、ヒスイは見られなくなってしまいました。こののち昭和になるまでヒスイの存在が歴史から消えてしまったのです。これは、仏教の伝来と関係しているともいわれています。大陸文化や仏教信仰は聖徳太子の時代から天皇中心の政治を進める土台となり、古来からの民間信仰を捨て、珍重されていたヒスイも使うことをやめたのではないかと考えられています。

そのため、糸魚川でヒスイが採れることも忘れ去られ、日本にはヒスイの産地はなく、遺跡から出るヒスイは大陸から持ち込まれたものと昭和初期まで考えられていました。

ヒスイの発見・・・昭和 13 年（1938）、糸魚川の相馬御風（日本の詩人、歌人、評論家）が古事記や万葉集を研究していた時に、「奴奈川の玉」という記述から、地元で伝わる奴奈川姫伝説の奴奈川姫がヒスイの勾玉をつけていたと言われているので、もしかするとこの地方にヒスイがあるのかもしれないと推測し、知人に話したそうです。その知人は、小滝村（現在の糸魚川市小滝）に住む親戚に御風の推測を伝えました。そこで、地元の川を探してみることにし、小滝川に注ぐ土倉沢の滝壺で緑色のきれいな石を発見しました。昭和 14 年（1939）この緑の石は、東北大学理学部岩石鉱物鉱床学教室の河野義礼先生へ送られ、ヒスイであることが科学的に証明されました。

昭和 14 年（1939）東北大学の現地調査によって、小滝川の河原にヒスイの岩塊が多数あることが確認されました。



勾玉



小滝川ヒスイ峡

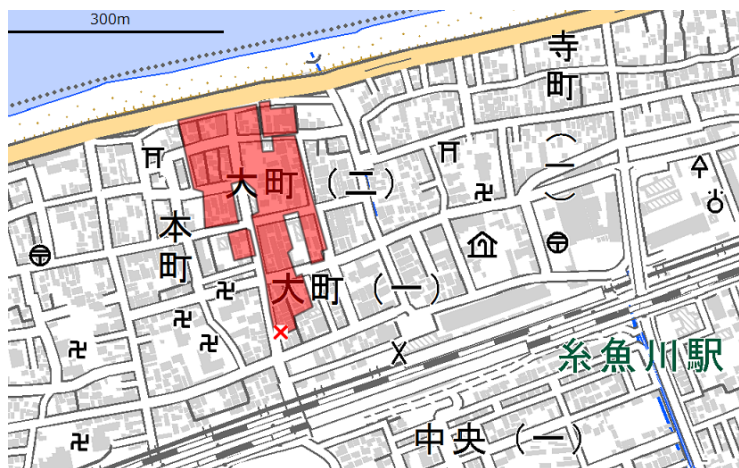
昭和 31 年 糸魚川のヒスイは国の天然記念物とされ、保護区域の採取は禁止されました。新潟から富山までの海岸線では川から流れついたヒスイが見られます。（糸魚川市振海岸）

第2日目 7/6 (金)

糸魚川市役所 復興課職員と消防署員との懇談 糸魚川公民館



懇談場所である公民館の入り口



〔市職員による説明と懇談より〕



### 糸魚川駅北大火の概要

出火：平成28年12月22日午前10時20分頃

覚知：同日午前10時28分

鎮圧：同日20時50分

鎮火：12月23日(金)16時30分

出火原因：大型コンロの消し忘れ

焼損棟数：147棟

(全焼120棟 半焼5棟 部分焼け22棟)

焼失面積：約40,000㎡(被災エリア)

焼損面積：30,123㎡

負傷者：17人(一般人2人 消防団員15人 中等症1人 軽症16人)

被災者状況：145世帯 260人 56事業所

気象状況：気温18.4℃ 湿度54.7% 最大瞬間風速南南東27.2m/s (フェーン現象)

災害対策本部設置：12月22日(木)13時00分

避難勧告発令：合計363世帯 744人

避難勧告解除：12月24日(土)16時00分

糸魚川市駅北大火は、平成28年12月22日(木曜日)10時20分頃に発生し、翌23日(金曜日)16時30分の鎮火に至るまでの約30時間続いた大規模火災です。

冬場としては珍しいフェーン現象で乾燥した南からの強風にあおられ次々と飛び火し炎症が拡大した。消失範囲は約40,000平方メートル、火元から約300メートル離れた日

本海沿岸まで燃え広がり、火災としては初めて被災者生活再建支援法（風害による）に適用されました。

現場は、糸魚川駅北側の古い木造家屋が密集する地域で、新潟県最古の酒蔵や創業 200 年の老舗割烹などがある歴史と伝統のある地域でした。また、家の軒を庇のように道路側に突き出させた雁木造（がんぎづくり）も、雪国・新潟ならではの風情を醸し出していました。古い木造家屋は耐火性が十分でなく、家屋が密集すれば容易に延焼拡大します。さらに軒を連ねた雁木が延焼を助長したようです。

糸魚川市は面積 746.24 平方キロメートル（相模原市面積 328.91 平方キロメートル）  
総人口 43,675 人 世帯数 17,46 世帯 消防団員数は約 1,000 人。

住民への避難呼びかけ方法は

① 行政無線用個別受信機を各世帯が設置（普及率 65%）しているので避難勧告を発令。  
《防災行政無線・市安心メール広報内容（12 時 22 分）》 「大町 1 丁目広小路通り付近で発生した建物火災は、強風のため延焼拡大の恐れがあります。避難勧告を大町 2 丁目と本町に発令しました。避難場所は市民会館です。なお、火災現場付近の車両は移動をお願いします。」

② 単位自主防災隊が各世帯に避難の呼びかけに回った。

この 2 つの対応で怪我人が少なかった。

消防団員の怪我は飛散物や煙による目の痛みの発症、釘の踏み抜きによる負傷など。消防団員装備品としてゴーグル、マスク、ヘッドライト、踏み抜き防止版入り長靴を後から配布した。

### 消火用の水の不足

防火水槽、消火栓の水では消火が間に合わず、自然水利（奴奈川用水、海水）を民間の協力でコンクリートミキサー車などで運んだ。



大容量の防火水槽を建設中



義援金：8億 1950万 6858円

平成28年12月24日～平成29年12月末現在

見舞金：487件 1億 6976万 4298円 平成29年12月末現在

ふるさと納税：20,711件 5億 1198万 2801円 平成29年12月末現在

・強風による自然災害として被災者生活支援法が適用され、被災者再建支援金（基礎支援金・加算支援金）を支給する。

・義援金の配分平成29年1月～12月までに振込（第1次～第5次）

・火災保険の適用

復興まちづくり計画 29年3月からスタート

合意形成に長時間を要する大規模な区画整理事業なの抜本的な基盤整備によらない修復型のまちづくり

早期の再建意向への対応

意向調査により、早期の生活再建、事業再開を望む声が多くスピード感のあるまちづくり

糸魚川らしさの継承

旧街道を中心として形成された歴史と文化の香りが漂う糸魚川らしい町並みの継承

地域への愛着と安心感

特に高齢者層において、住み慣れたまちに対する愛着心が強い

既存インフラの活用

ガス、水道管、道路などの都市基盤の被災が限定的であり、活用が可能

復興まちづくり計画の目標と3つの方針

目標：カタイ絆で よみがえる 笑顔の街道 糸魚川

3つの方針：① 災害に強いまち ② にぎわいなるまち ③ 住み続けられるまち

\*29年3月より毎月何度も会合を重ねながら復興まちづくりに取り組んでいる。

\*29年10月には糸魚川駅近くに「復興まちづくりセンター」を開所





## 視察会研修会の感想から

- \* 今回の視察研修会は長い行程ではあったが、1 日目の休憩時間や途中の見学場所の選定には十分検討したことが理解でき、快適なバスの運行もあり全体的にとっても素晴らしい視察研修会になったと思います。
- \* 今回も日本の新発見ができました。お世話になりました。ありがとうございました。
- \* 一泊二日の研修でしたが、宿泊先の国富翠泉閣はとても素晴らしいホテルでした。このホテルも 7~8 年前に大雨で消失したため、対岸に現在のホテルを再建したそうです。そのため新しくして廊下が畳廊下で、初めて畳廊下というものを体験しました。恨めしかったのは向いの川（姫川）が大雨のため茶色の濁流で景色が台無しでした。

## 第 1 日目 大王わさび園 フォッサマグナミュージアム

- \* 大王わさび農園 その土地、自然の恵み（水）に根づいたわさび栽培の歴史に感銘する。
- \* 大王わさび園内を勢いよく並んで流れる 2 つの川の光景には目を奪われた。珍百景の看板の説明を読みながら水質が全く違うことも驚きだった。
- \* わさび尽くしの昼食はとても良かった。
- \* 「フォッサマグナミュージアム」は収集物や展示方法等について工夫が見られ、さすがに「日本展示学会賞」を受賞した博物館であると思いました。
- \* 日本の東西を分ける帯状の境界断層「糸魚川・静岡構造線」の地域と成り立ちが理解できてよかった。
- \* 日本列島の起源となるフォッサマグナが糸魚川に存在したことをヒスイとか各種岩石等の展示を見て再認識できた。また、わが相模原市もこの境目の上にあることの驚きとプレート動きで地震発生にも影響するのかと心配される。
- \* 今まで地理学としてフォッサマグナを理解していたが、ミュージアムでの地学的及び歴史的な説明によりフォッサマグナについて立体的なとらえ方ができるようになった。
- \* 日本列島の地下にある数多くの活断層、地震の巣である大地に住む私たちの宿命を痛感した。

## 第 2 日目 糸魚川市役所 復興まちづくり情報センター ヒスイ王国館

- \* 糸魚川市大火の復興状況及び防災に関する取り組み方法など参考となる話が多々あり大変勉強になった。復興のスピードには感心させられた。市役所と地域の連携協力が素晴らしいと感じた。現状の相模原市では???
- \* 大火の約 1 年半後の視察でしたが、約 17~18 億円（義援金、見舞金、ふるさと納税）+個人保険金等の関係からと思われそうですが、予想に反し早く復興しているようで、空地は目立つものの「火災後の傷」は、ほとんど見受けられませんでした。
- \* 「糸魚川市駅北大火の概要」と「糸魚川市北復興のまちづくり計画」についての市職員のレクチュアは今後の防災や復興への取組みの参考になりましたが、相模原市との規模の違

いや想定する大地震による大火発生に当てはめることはできないと感じました。

- \*「復興まちづくり情報センター」で、参加者が復興基金への寄付ができたことは良かったです。
- \*大火後の住民のうち、元の地に戻ったものが67%で、空地は市が買い取りも考えているとのこと。とはいえ、30%余りが戻らないかもしれないほどの大打撃には、ただただ、うまく復興が進むことを願っています。なお、行政の復興計画は5年後の33年までで、まだ復興中です。
- \*この町の火災の歴史は文化3年（1806年）から今日まで13回目だそうです。
- \*火事+風による自然災害となった火災のおそろしさを目の当たりにした。しかし、わずか1年間の間に住宅の新築、道路整備などがドンドン進捗している復興まちづくりの組織力、市民の活力がみてとれた。自治体活動の貴重な実証でもある。
- \*復興まちづくり計画の推進のため、被災直後から住民と市が数多くの話し合いを重ね、現在もそれは続いているが、「まちづくり」の基本となる住民参加の方法が、早い復興に生かされていると思った。
- \*65%の普及率である個別受信機の備付けが住民の避難に役立ち、怪我も防いだということを知り、よく聞こえない「ひばり放送」では、すみやかな避難は無理だと思った。

#### 今後の希望する視察先

- \*視察先は、その目的と心がけ次第、どこへ行っても勉強になります。
- \*東日本大震災の被害が大きく受けた福島県沿岸部(いわき市)か茨城県沿岸部(北茨城市)あたり。

#### その他

- \*今回の参加人数も13名ほどでしたが、自治会長会議で事前PRを行い、自治会長の出席を促すしかないと思います。  
お世話になりました。ありがとうございました。